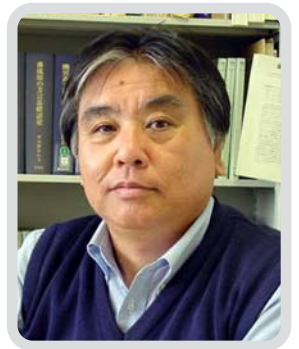




# 消滅の危機に瀕する琉球語諸方言の調査研究-継承、普及を視野に入れて

琉球大学法文学部 教授 狩俣繁久



## 研究の背景

ユネスコは、今年2月に世界の6千前後の言語のうち、約2500の言語が消滅の危機に瀕しているという調査結果を発表しました。琉球語もその中に含まれます。琉球語の危機的な状況は専門家の間では周知のことで、30年以上も前から保存、継承のための調査研究に取り組んでいましたが、ユネスコの発表はあちこちに衝撃を与えました。

## 研究の成果

琉球列島の人口は日本の1%で、琉球語は日本のマイノリティの言語ですが、北端の奄美大島と西端の与那国島の距離は、宮城県と広島県の距離に匹敵します。広大な地域で話される琉球語諸方言は日本語諸方言に負けないほどの多様性に満ちています。

最北端の奄美大島の佐仁集落の方言はa,i,u,e,o,i,ëの7個に長短の区別があり、さらに求ã,õ,ĩ,ẽの鼻母音と併せて18個の母音を有することがわかりました。一方、最西端の与那国島方言の母音は、a,i,uの3個を基本としています。宮古大神島方言の子音はp,t,k,f,v,s,m,n,j,rの10個しかありませんが、f,v,s,m,nが子音単独で音節をなすこと、kffi(作れ)、pstu(人)のf,sが母音のように音節主音として機能すること、子音にも長短の対立があり、長子音だけからなる単語m:(芋)、s:(菓)、v:(売る)が存在すること等がわかりました。佐仁方言や大神島方言の音



図1

韻的特徴は日本語諸方言には見られない特異なものです。

遅れていた南琉球方言の文法研究にも取り組んでいます。琉球語は現代日本語が失った係り結びを保持していますが、宮古方言に係助詞du(ゾ)、ga(カ)、nu(ナン)があること、gaが疑問詞質問文に、nuが肯否質問文に現れて、話者の疑問を焦点化することが分かってきました。琉球語は日本語の歴史を知る上で重要な位置を占めるだけでなく、言語類型論的にも興味深い現象があります。

## 今後の展望

琉球語の継承のための研究が急務です。複雑な構造をもち、すぐれて体系的な言語を全体として継承させるには、辞書と文法書を刊行する必要があります。沖縄島の名護市幸喜集落の方言辞典刊行にむけた調査も続けています(図1)。約2万語を収録予定で、刊行後に琉球大学附属図書館のHPの琉球語音声データベース(ryukyu-lang.lib.u-ryukyu.ac.jp)の一つとして、音声資料とともに一般に公開する計画です(図2)。琉球語の文法記述もデータベース化する計画です。



図2

### 関連する 科研費

平成12-14年度 特定領域研究(A)「危機に瀕した琉球語奄美方言の緊急調査研究」  
平成20-22年度 基盤研究(B)「南琉球方言の文法の基礎的研究」